

冬夜長兮冬夜長
 冬夜無兮何時明
 燈無始兮無炭
 只聞砧杵上夜雨
 この詩ふとは、良寛のいふいふの草庵
 のたてあふまゝいがふことに描き出されたため
 リ鈴のうしろで。彼の人を親にまを膝をな
 ねる。あゝいふやうな聲も。○
 良寛の詩馬は天保二年うらゐる。そ
 れのうらゐる。つゝ彼が名前にある。

書—その生と死と
 書本告流
 越後の、あのけんのふいふのなかには、ひ
 とりの生を、くやむこともなしにおえたお
 独を、人、良寛は、なつて、
 づゝに風を。